

VIII 酪農・肉用牛生産近代化計画

1 第8次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画のポイント

第7次計画で目標として定める「産基盤の強化」と「収益力の向上」をベースに、令和12年度(2030年度)を目標年度とする第8次計画では、本道の酪農・肉用牛経営が外的要因にも影響されにくい「経営体質の強化」を図るとともに、関連業界と連携し「生産体制の強化」や「需要の創出」を進めることで、足腰が強く、将来にわたり地域経済・社会の活性化にも貢献できる強固な産業となることを目指す。

経営体質の強化 ~外的要因にも影響されにくい経営~

酪農経営

生産基盤の強化

- 家族経営体の経営力の強化と協業法人の推進
- 畜産クラスター事業等の効果的な活用
- 施設整備のコスト低減

収益力の向上

- ベストパフォーマンスの実現
- スマート農業技術の活用
- 経営管理能力の向上
- 放牧酪農の推進
- 性別別精液や和牛精液等の効果的な活用
- 乳牛改良の推進

肉用牛経営

生産基盤の強化

- 肉用牛経営と酪農経営の連携
- 一貫経営の推進
- 和牛の生産拡大

収益力の向上

- 多様な肉用牛経営の育成
- 飼養管理技術の向上
- 肉用牛の改良の加速化

地域連携・持続的発展

労働負担の軽減

- 営農支援組織の活用
- 営農支援組織の機能強化

多様な人材の育成・確保

- 次世代につながる人材の育成・確保
- 経営資源の継承

飼料基盤のフル活用

- 自給飼料の生産・利用拡大
- 草地の植生改善等

畜産環境対策及び家畜衛生対策の充実・強化

生産体制の強化 ~生産・製造・販売が一体となった生産~

○ 生乳の安定的な生産

- ・ 地域営農支援システムの充実等による計画的かつ高品質な生乳の安定的な生産
- ・ 指定事業者などの関係者と緊密な連絡調整による適切な配乳調整
- ・ 製造施設の整備や需要創出による消費者ニーズに即した高品質な牛乳乳製品の安定的な供給



○ 災害等に強い酪農・畜産の確立

- ・ 災害時における営農活動の継続に向けた対策
- ・ 需要の確保に向けた関係者における不断の緊密な連携
- ・ 都府県への効率のかつ安定的な農畜産物等の輸送



需要の創出 ~出口を見据えた生産~

○ 食の安全と消費者の信頼確保

- ・ 生産資材の適切な利用
GAPやHACCPの考えに基づき、生産段階でのポジティブリスト制度に対応した農業や動物用医薬品等の適正使用の徹底、生産履歴の記帳・保管、搾乳機器の適正使用、抗菌剤の適切な選択と慎重な使用
- ・ 衛生管理の充実・強化
各種法令の遵守や衛生管理の高度化、事故発生時の的確な対処などの危機管理体制の構築
- ・ 消費者への理解醸成
生産現場や畜産物の「見える化」等による理解醸成、観光産業や小売業、飲食業等と連携し情報発信

○ ブランド力の向上

- ・ 牛乳乳製品や牛肉のPR、各種登録・認証制度等によるブランド化や差別化

○ 輸出の推進

- ・ 特に旺盛な需要が見込まれるアジア等への輸出環境の整備



目指す姿

数量目標 (H30年度 → R12年度)

乳牛	
飼養農家戸数	5,970 戸 → 5,010 戸
頭数	801 千頭 → 837 千頭
生乳生産量	397万トﾝ → 440万トﾝ
(内訳)	
飲用向け	116万トﾝ (道外移出 57万トﾝ)
脱脂粉乳・バター向け	138万トﾝ
チーズ向け	49万トﾝ
生クリーム等向け	132万トﾝ
その他食品原料向け	2万トﾝ
自家消費等	3万トﾝ

乳業	
(飲用)工場数	17 → 16
稼働率	61% → 70%
(乳製品)工場数	24 → 23
稼働率	57% → 65%

肉用牛	
飼養農家戸数	2,536 戸 → 2,400 戸
(内訳)	
肉専用種繁殖経営	1,710 → 1,560
肉専用種肥育経営	58 → 50
肉専用種一貫経営	341 → 350
乳用種・交雑種育成経営	203 → 150
乳用種・交雑種肥育経営	91 → 130
乳用種・交雑種一貫経営	133 → 160
頭数	513 千頭 → 552 千頭

食肉処理施設	
処理頭数	594 頭/日 → 720 頭/日
稼働率	73.6% → 80.0%以上

飼料	
作付面積	589 千ha → 589 千ha
・牧草	533 千ha → 523 千ha
・デントコーン	55 千ha → 65 千ha
飼料自給率	52% → 62%

2 第8次北海道酪農・肉用牛生産近代化計画の生産数量目標(令和3年3月策定)

生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標

- 生乳の生産量の目標については、経産牛頭数の維持と経産牛1頭当たり乳量の増加を見込み設定。
- 乳牛の飼養頭数の目標については、目標年度における酪農家戸数や経営規模の拡大を見込み設定。

区分	総頭数 (頭)	成牛頭数 (頭)	経産牛頭数 (頭)	経産牛頭当たり 年間搾乳量 (kg)	生乳生産量 (千t)
現在 (平成30年度)	801,000	502,100	464,000	8,568	3,970
目標 (令和12年度)	837,000	525,000	490,000	9,000	4,400

乳牛の飼養規模拡大に関する事項

- 営農支援組織の強化や畜産クラスター事業等を活用した規模拡大、組織経営体の育成、ICTやIoT技術を活用した省力化に対する支援を実施。
- 牛群検定情報等の活用による適切な飼養・繁殖管理、性別別精液の活用等により、必要な乳牛頭数の確保を図る。

区分	①飼養農家戸数 (戸)	乳牛頭数		1戸当たり平均飼養頭数 ②/① (頭)
		②総頭数 (頭)	うち成牛頭数 (頭)	
現在 (平成30年度)	5,970	801,000	502,000	134.2
目標 (令和12年度)	5,010	837,000	525,000	167.1

飼料の自給率の向上

- 植生改善への取組を推進し、牧草の単収を3,240kg/10aから3,500kg/10aへ増加。
- サイレージ用とうもろこしの作付面積を55,500haから65,500haに拡大。
- アイコンサイレージなどの自給濃厚飼料等の生産・利用の拡大を推進。
- ビートパルプなど食品製造副産物の生産状況を把握し、飼料への利用の取組を推進。

区分	現在(平成30年度)	目標(令和12年度)
飼料自給率(%)	乳用牛	71
	肉用牛	30
	牛合計	62
飼料作物の作付延べ面積(ha)	589,100	589,100

肉用牛の飼養頭数の目標

- 一貫経営への移行や繁殖雌牛の増頭、和牛受精卵及び黒毛和種精液を活用した乳牛からの交雑種生産等を見込み設定。

区分	肉用牛 総頭数 (頭)	肉専用種				乳用種等		
		繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	計
現在 (平成30年度)	512,800	75,600	53,600	59,500	188,700	182,700	141,400	324,100
目標 (令和12年度)	552,000	80,800	54,200	63,700	198,700	192,100	161,200	353,300

肉用牛の飼養規模拡大に関する事項

- 飼養管理技術の向上、地域の飼料資源等の活用や品種特性を活かした肉用牛生産の推進、生産技術の改善等による道内肥育仕向け率の向上などに重点をおいた取組を推進。

区分	飼養農家 戸数 (戸)	肉用牛飼養頭数(頭)		
		総数	肉専用種	乳用種等
肉専用種 繁殖経営	現在(平成30年度)	1,710	97,900	97,900
	目標(令和12年度)	1,560	106,400	106,400
肉専用種 肥育経営	現在(平成30年度)	58	24,900	24,900
	目標(令和12年度)	50	25,100	25,100
肉専用種 一貫経営	現在(平成30年度)	341	65,900	65,900
	目標(令和12年度)	350	67,200	67,200
乳用種・交雑種 育成経営	現在(平成30年度)	203	82,800	82,800
	目標(令和12年度)	150	90,300	90,300
乳用種・交雑種 肥育経営	現在(平成30年度)	91	117,200	117,200
	目標(令和12年度)	130	127,800	127,800
乳用種・交雑種 一貫経営	現在(平成30年度)	133	124,100	124,100
	目標(令和12年度)	160	135,200	135,200
合計	現在(平成30年度)	2,536	512,800	188,700
	目標(令和12年度)	2,400	552,000	198,700